

# セイフティエンジニアリング誌 200号の発刊に当たって



公益財団法人総合安全工学研究所 理事長 **田村 昌三**  
Masamitsu Tamura

今回、セイフティエンジニアリング誌（以下、SE誌）が200号の発刊を迎えることになった。

公益財団法人総合安全工学研究所は1973年8月に設立され、総合安全工学に関する調査研究、研修、普及・啓発等を行うことにより、安全に係る科学技術の向上を図り、もって国民の福祉の向上及び社会経済の健全な発展に貢献することを目的として産業界、学会、官界の支援を得て、各種事業を推進してきた。

そして、SE誌は総合安全工学に関する科学的知識の普及・啓発を図る役割等を担って1974年4月に創刊号が発刊された。SE誌は安全の専門家のみならず現場の従業員をはじめ多くの方が気軽に読めて、安全に関する幅広い内容を理解していただくことができるようにとの考えで、イラストや写真を多くし、文字を大きくして文字数を減らし、カラー印刷とした等の特色がある。また、創刊から20年間はSE誌が本来の趣旨を維持するため、当初は編集委員が執筆し、その後も原稿提供者からの原稿を基に編集委員が執筆する等、編集委員の役割が大きかった。現在のよう  
に執筆者を中心とした記事等となったのは2004年10月発行の通巻131号になってからであった。

今日の総合安全に関する読みやすい分りや

すいSE誌に定着し、産業安全、社会安全に貢献することができるようになったのは編集委員をはじめ関係者の方々の多大のご尽力によるものであり、心から敬意を表する次第である。

近年、産業環境は大きく変化し、また、人や社会のものの考え方も変わってきた。その中で安心・安全な社会への期待は大きい。その実現のためには、安全に関する知識、技術、情報、システムのみならず、人や組織、それを取り巻く環境等の多様な視点から安全について総合的に考える必要がいつそう強くなっていると思われる。当財団には、工学のみならず、理学、医学、薬学等の自然科学分野をはじめ、社会科学や人文科学の分野の専門家もご参加いただいております。当財団は、現在及び将来の安全に関する課題について総合的に考える中核的な場として、社会の期待に応える必要があると考えている。

当財団が安全技術の向上、正しい安全情報の提供、安全に関する知識、技術の普及・啓発、安全に関する調査協力や支援、人材の育成等の事業を展開する上で、事業の状況や成果を発表し、安全に関する知識、技術の普及・啓発を行い、人材の育成に努める上でも、SE誌の役割は極めて大きいと思っている。SE誌のますますの発展を期待したい。

## 公益財団法人総合安全工学研究所 理事・監事

理事長 (代表理事)	田村 昌三	東京大学名誉教授
専務理事 (執行理事)	小川 輝 繁	横浜国立大学名誉教授
常務理事	福 富 洋 志	横浜国立大学名誉教授 放送大学神奈川学習センター所長
常務理事	若 倉 正 英	(国研)産業技術総合研究所客員研究員 (特非)保安力向上センターセンター長

理 事	新 井 充	東京大学名誉教授
理 事	高 木 伸 夫	(有)システム安全研究所所長
理 事	谷 質 生	日油技研工業(株)川越工場長
理 事	三 宅 淳 巳	横浜国立大学先端科学高等研究院 副高等研究院長・教授
理 事	安 原 洋	東京通信病院病院長
監 事	河 野 晴 行	(公社)日本煙火協会専務理事
監 事	田 中 保 正	元(一社)日本芳香族工業会専務理事